

SHIRAKOBATO

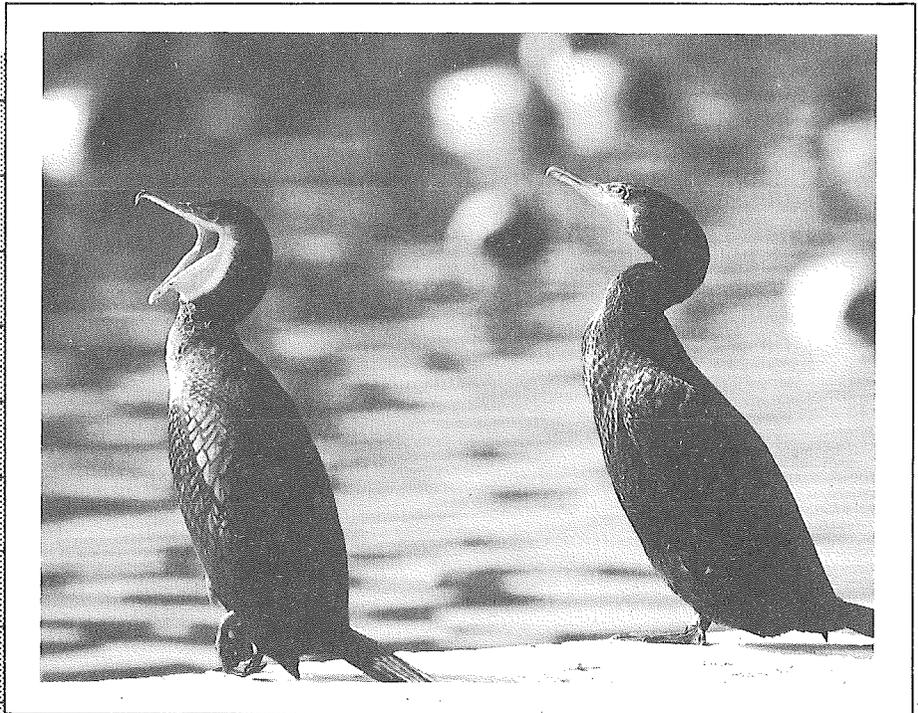
# しらこぼと



1994. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 127

日本野鳥の会 埼玉県支部

ついに発刊!!

## 気ままにバードウォッチング

支部発足10周年記念事業として出版作業が続けられた本が、予定より少し遅れて、11月1日初版第1刷発行に至った。『埼玉野鳥見て歩き』という仮称から、タイトルは、『気ままにバードウォッチング』に。どういう事から、どういう目的で、どんなふうにかこの本ができたか、そのすったもんだをご紹介します。

そもそも発端は

わたしたちが書いた最初の本『埼玉見て歩き・県北版』が出たのが昨年(1992)の7月。その本については本誌1993年8月号でご紹介しているが、幹書房(浦和市)という出版社が発行している『埼玉見て歩き』シリーズの一環として、県北の自然散策14コースを、支部役員リーダーたちが手分けして書いたもの。

それなりに野鳥の観察の便利を考えて執筆したが、地域の歴史などについても言及する必要があり、地域が県北地方に限られた事にも少し不満が残った。

そんな下地があったからだろうか。この本発刊の記者会見の時、記者から次の出版計画について聞かれた私は、「例えば『埼玉野鳥見て歩き』と題するような、県内全域を対象として、野鳥とのふれあいを案内する本を書きたい。地球環境の問題を理解するには、まず身近な自然をじかに知ることがもっとも大切である……」などと口走ってしまった。

支部の記念事業として

多忙に紛れ、少しその事から頭が離れかけていた昨年末、忘れていなかった幹書房の関泰邦社長から、本気で『埼玉野鳥見て歩き』に取りかからないかと持ちかけられた。

うん、やってみたいけどな、はじめれば大変な仕事だし、でもやってみたいな、どうしようかな、なんて考えながら、今年1月の役員会議ではじめて相談した。

役員たちの反応は、積極的だった。「ちょうど支部発足10周年だし、その記念事業としてやろうじゃないか」「そうだそうだ、そうしよう」「えいえいおーっ」と、2月には最初の編集会議が開かれる事になった。あれよあれよ……

どういふ本を作ろうか

最初の編集会議には、まず役員たちの出席を求めた。それだけで、事前に協力を申し出た者、当日出席した者を合わせて、すでに20名を越えていた。その後月に1度のペースで編集会議を開き、議論を重ねた。

全国各地の支部などが出しているいろいろな本も集めて参考にして、「もう野鳥に関する出版物があふれている中で、あらためて我が本を出す必要があるのか」「そういう中でも、必要とされるのはどういふ本だろう」「我々自身が初めてバードウォッチングを始めようと思った時に、図鑑や案内書は、どういふところが役に立ち、どういふ点が不便だったろう」……。

結局まとまった方針は、まず「生まれて初めてバードウォッチングをしようと思った人に、実際に役に立つ本」「本を手にとった人が、バードウォッチングを始めたいと思う本」。その具体的内容は、埼玉の基本の鳥60種くらいを、専門用語を使わない普通の言葉で、どこでどういふ事を注意したら会えるかを紹介し、一方で、県内の代表的な探鳥地15コースくらいを、できるだけ実際に案内することとして、会議を重ねるにつれて、掲載する鳥の種類と、探鳥地、それぞれの執筆者などが次々と決められていった。

鳥の写真大募集

鳥の写真は、ただ横向きのかいにも図鑑的な写真だけではなく、できるだけ質の高いものを集めよう。会員みんなの協力をあおごうではないかという事で、本誌本年4月号で呼びかけたところ、5月末日の応募期限までに集まったものと、過去の当支部のネイチャーフォトコンテスト入選作品の中から該当鳥種

のものも合わせて、430枚にも達した。

その選考には頭を悩ませたが、結局出版のプロである幹書房の判断に任せる事にして、本文中には、23名の105枚が採用された。

作品的にはよりすぐれているが、その鳥の特徴が表現できているかどうかの点で、掲載見送りになった写真もあり、掲載枚数に制限のあるのが残念だった。

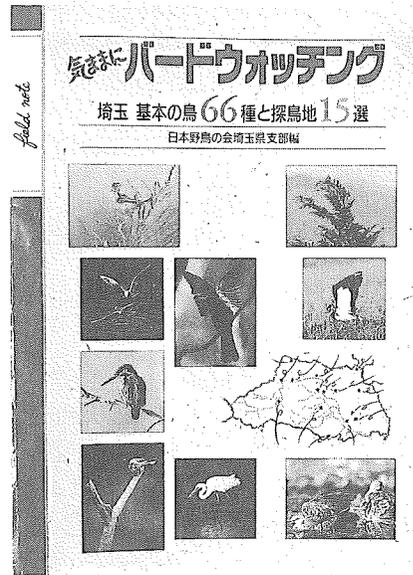
#### 地獄の書き直し作業

26名の執筆者の原稿が集まったところを一読すると、当然のことながらそれぞれの個性豊かさが目だった。コース紹介のほうはすでに経験もある事なので、ある程度のまとまりがあったが、特に野鳥紹介のほうは、優れた個人的エッセー風の名文から、鳥の特徴を分かりやすく箇条書きで並べたものまで、実にさまざま。激論が交わされたが、結局出版社側のもっともな意見に押されて、私がすべての原稿に手を入れ、全体のタッチをそろえる事になり、夏休み返上で書き直し作業が始まった。結果として、元原稿とはまったく別の文章になってしまったものが多く、執筆者の皆さんには、心からおわび申し上げるほかはない。

#### 納得できる仕上がりに

全会員のバックアップと、イラストマップとカットに、会員のプロ漫画家・富士鷹なすび氏の協力を得て、本はでき上がった。

結果として、出版社も認めるとおり、十分に目標通りの、いや、目標をうわまわる仕上



気ままだにバードウォッチング  
日本野鳥の会埼玉県支部編 幹書房刊  
定価1800円 A5判 102ページ

がりになったと思う。

私は「あとがき」に、自信を持って書いた。「見る目の方向を少し変えるだけで、どれほど多くの生命が、私たちの隣人として生きているかを知ることができる。(中略)この本は、そんな新しい世界へのきっかけとして、大切な役目を果たすことができると思う。」

探鳥会やお近くの書店で、ぜひ一度手に取ってご覧ください。

海老原美夫(浦和市)

#### ■ バードソンいよいよ本番!! リブラン埼玉レッズ '94 ■

11月の埼玉県内を1日走り回ると、何種類の鳥がみられるか? この話題になると、メンバーの目が急に輝いてきます(いろいろめんどーなことについて話している時とは、顔が違うんです)。秩父山地から渡良瀬遊水地までくまなく回ることができれば、100種以上は確実なのですが、予定地に限ってみると、最高に運が良くて、97種! 最低に運が悪くても、昨年の記録はうわまわりたいという事で、一同力強くうなずきあいました。

タイムスケジュールは次の通りですが、その日の状況で変わる事もあります。

5:30 神泉村 城峰公園  
下久保ダム  
8:00 本庄市 阪東大橋  
10:15 熊谷市 大麻生  
12:15 吉見町 吉見百穴  
14:45 浦和市 三室  
15:40 浦和市 秋ヶ瀬  
戸田市 道満調整池

終了後、支部事務局へ。どこでも見物・差し入れ・情報歓迎。

募金の申込方法は、「連絡帳」欄をご覧ください。

# 1994年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日 時：1994年9月15日

- \* 9:30～11:10 大久保農耕地
- \* 14:30～16:00 入間川
- \* 9:00～11:30 利根川

天 候：雨

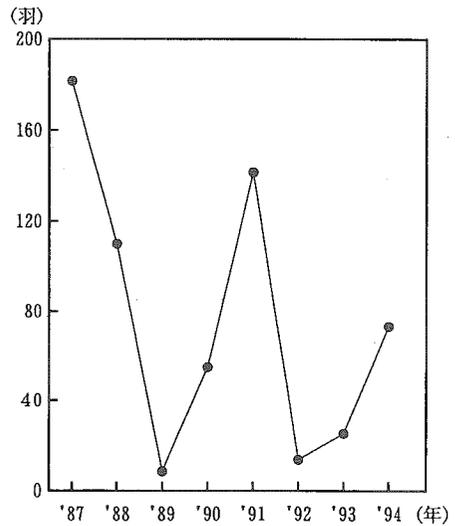
9月15日に埼玉県内のシギ・チドリ類の一斉調査が行われました。この日は秋雨前線が房総半島南部に停滞していたため、午前中にかけて雨が強く降っており、あいにくの調査日になってしまいましたが、支部会員16名の協力を得て行われました。雨天の中ご苦労さまでした。

今年の夏は全国的に気温が高く、大久保農耕地におけるイネの刈り取りは例年より早く始まりほとんど刈り取られていましたが、雨が異常に少なかったため田には水がなく、数日前まではほとんどシギ・チドリがいないという状態でした。

観察された鳥類・個体数は8種129羽で、大久保農耕地においては昨年とほぼ同じ個体数でした。

グラフは秋のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロの個体数をまとめたものです。  
(石井 智)

大久保農耕地におけるムナグロの個体数



1994年秋 シギ・チドリ類調査結果

調 査 地	大 久 保 農 耕 地 浦和市/大宮市			入 間 川:狭 山 市 (豊水橋～新富士見橋)			利 根 川:本 庄 市 (阪東大橋下流)		
	'92年	'93年	'94年	'92年	'93年	'94年	'92年	'93年	'94年
鳥 類									
コチドリ	—	—	11	—	—	—	—	—	—
イカルチドリ	—	—	—	1	9	—	6	—	—
シロチドリ	—	—	—	—	—	—	2	—	—
ムナグロ	10	24	74	—	—	—	—	—	—
キョウジョシギ	—	—	—	—	—	—	1	—	—
トウネン	—	2	—	—	—	—	—	—	—
ハマシギ	—	—	—	—	—	—	24	—	3
アオアシシギ	—	—	—	—	—	—	4	—	2
クサシギ	—	—	1	—	—	—	1	—	—
タカブシギ	—	—	—	—	—	—	1	—	—
キアシシギ	—	—	—	—	—	—	6	—	—
イソシギ	—	1	—	3	8	5	8	—	4
タシギ	—	80	19	—	—	—	3	—	—
ジシギSP.	—	3	2	—	—	—	1	—	7
個 体 数 合 計	10	110	107	4	17	5	57	—	16
種 類 数	1	5	5	2	2	1	11	—	4

探鳥会 — 初体験の記 —  
山口進啓 (川越市)

ハシトガラスとハシボソガラスすら目の前に並んでくれないことには、区別することがおぼつかない初心者が、「カワセミに出会える」に小躍りして探鳥会に参加。

幼子が手を引かれて野道を踏み、おとぎ話にいちいちなずきながら何処か知らない所へ連れて行って貰う、そんな気分の私ども夫婦。

しかし、遠慮なく、懐かしいまでにゆったりとした時の流れに身をゆだねさせてもらった。

9月10日の高麗川探鳥会。忍耐力を試すかのような残暑が体を揺らす。ダブルのドシロウトが単なるアクセサリーにはならじと双眼鏡を指導者の指さす彼方に向ける。

そして、高麗川の木橋を渡りかけた瞬間、双眼鏡の中にブルーの背をしたカワセミが入ってくれるのではないか。ありがたい、合わせて100歳を超えるドシロウトカップルは、歳を忘れてカンキ、歓喜。

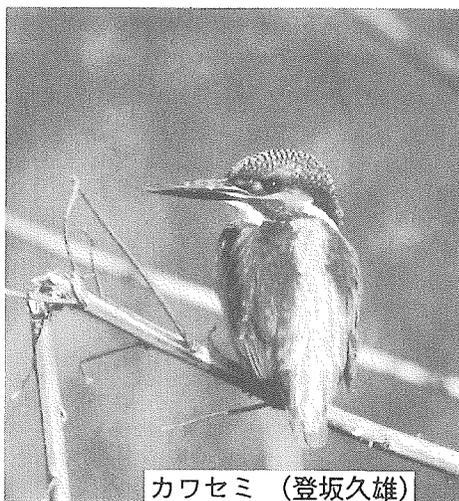
このカップル、今はどんなポピュラーな野鳥に出会おうが感激することしか術を持たない。だから、指導者の説明はありがたい經典のごとく両耳をふるわしてくれる。

今春、野鳥の会のキャリアが、体力のない私の事情に合わせて外秩父の低山に誘ってくれた。お会いして二度目の方々だったが、野草の話を織りまぜながら野鳥について分かりやすく説明してくれる。

足手まといに違いない私ども夫婦を誘って



キビタキ (木村勉)



カワセミ (登坂久雄)

くれたことに感謝しながら、キビタキに出会った。

「運がいい人ですよ、初めての人がこの鳥に出会えるなんて」

そう言われても、私どもはどれほどの運なのか推測もつかない。野鳥との出会いを志したシロウトに落胆させてはならないとの配慮が、木々の向こうの空間から働いたのでしょう。

そして、私どもは野鳥との出会いをきっかけに、これまでとは違った形での優しき人々との出会いを味わっている。野鳥がトリ結んでくれた。

だから、私は鳥を探す(探鳥)というより野鳥と出会い、人と出会うことがうれしい。その日、探す鳥がいなくてもいい、たまたま出会った鳥で十分、出会った人で十分。

それにしても、レンズを通して見せてくれる野鳥の姿は美しい。大いなる創造主の技にただただ敬服。

そして、そんな野鳥の姿に賢い距離を置いて向かい合っている人間のやさしさがうれしい。野鳥との付き合い方、自然との素直な融合、生きとし生けるもの全てとの共存の喜びを教えてくれる「日本野鳥の会埼玉県支部」に、改めて感謝している。



調節池で1羽(高橋達也)。  
 シラコバト ◇8月15日、鴻巣市人形の自宅から駅まで朝の通勤時間に5羽確認。越谷からどンドン引越して来てるのでしょうか(内藤義雄)。  
 ツツドリ ◇9月4日、坂戸市の城西大学構内の林で1羽(増尾隆)。◇9月30日、戸田市の戸田公園で1羽(高橋達也)。  
 アカゲラ ◇9月10日、戸田市道満の釣り堀横の林で♂1羽(高橋達也)。  
 ショウドウツバメ ◇8月14日、深谷市の利根川上武大橋下流で約20羽(井上幹男)。◇8月21日、大宮市三橋1丁目の鴨川でツバメの群れ中に1羽(浅見健一)。◇9月23日、戸田市道満で2羽(高橋達也)。  
 コシアカツバメ ◇9月4日、坂戸市の高麗川天神橋下流で5羽(増尾隆・節子)。  
 ビンズイ ◇9月19日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。  
 モズ ◇8月7日、大宮市三橋1丁目の田んぼの杭と電線の上で親子で鳴きあう(浅見健一)。◇9月14日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で♀1羽。高鳴き(藤森三治・恵美子)。◇9月22日、鴻巣市人形の自宅の庭で高鳴き(内藤義雄)。  
 キレンジャク ◇9月2日、寄居町の自宅のカシの木で50羽(保坂達司)。  
 コヨシキリ ◇9月12日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽。さえずっていた。21日にもさえずりが聞かれた(高橋達也)。  
 コサメビタキ ◇9月3日、戸田市道満の管理橋横の林で1羽(高橋達也)。  
 サンコウチョウ ◇9月10日午前5時30分頃、浦和市鹿手袋の自宅付近で1羽。「ファイファイ。。」という聞き慣れない声で目覚め、外のケヤキの木を見てみると何とサン

コウチョウでした。30分程木々の間を飛び回り、東の方へ行ってしまった。思っていたより体が小さいのと長い尾のシルエットが印象的でした(鈴木美由貴)。◇9月23日、寄居町の鐘撞堂山で♀タイプ1羽。カラ類の混群とともに行動する(鐘撞堂山探鳥会2次会組)。◇9月25日、狭山市の稲荷山公園で1羽。背中は赤褐色。尾は短くアイリングのブルーはあまりはっきりしていなかった(人間川探鳥会参加者)。  
 キビタキ ◇9月30日、戸田市の戸田公園で1羽(高橋達也)。  
 ヤマガラ ◇9月4日、坂戸市の城西大学構内の林で3羽(増尾隆・節子)。◇9月4日、大宮市日進1丁目でシジウカラの群れ中に1羽(浅見健一)。◇9月6日、浦和市上野田で1羽(藤原寛治)。◇9月15日、菖蒲町の神明神社で3羽(内藤義雄)。◇9月25日、東松山市の物見山で1羽(内藤義雄)。  
 コムクドリ ◇8月7日、大宮市三橋1丁目で♂3羽♀1羽(浅見健一)。◇9月7日、戸田市道満で23羽(高橋達也)。◇9月8日、大宮市砂町で♂2羽(藤原真理)。

めんなさいコーナー

「しらこぼと」8月号の野鳥情報にまちがいがありました。おわびして訂正します。  
 サギ(コロニー) 戸田市道満荒川第一調節池で⇒戸田市大野の荒川貯水池で  
 トモエガモ アヒルの♂と交尾する⇒アヒルの♂と一緒に泳ぐ  
 ヨシガモ 戸田市道満荒川第一調節池で♂1羽⇒戸田市大野の荒川貯水池で♂1羽  
 アジサシ ◇4月30日、大宮市昭和の⇒コアジサシ ◇4月30日、大宮市昭和の

表紙の写真

カワウ (ウ科)

今日はウを見る日と決めて、じっくりと観察。

餌を求めて水に潜ったり、水しぶきをあげてけたたましく飛び上がったり、まるで悪魔のような格好で、濡れた羽を開いて乾かした

り、いつまでも飽きずに日向ぼっこをしたり。あげくの果てに、あくびまで。

じっと見ていたらこっちまで眠くなるような時間が過ぎていった。

工藤 隆 (所沢市)

# 行事あんない



(渡辺 敦)

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

## 大宮市・大宮市民の森探鳥会

期日：11月6日（日）

集合：午前8時10分 JR宇都宮線土呂駅東口、または午前8時30分 市民の森入口前（土呂駅東口より東へ徒歩5分）

担当：林（慎）、松井、桜庭、工藤、藤原、新堂、中村（栄）、浅見

見どころ：帰ってきたばかりのジョウビタキやコガモ、そして澄んだ空にモズの高鳴きを聞きながら、深まりゆく秋を感じてみましょう。

## 栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月12日（土）

集合：午前6時45分 東武鉄道大宮駅改札口、または午前7時30分 春日部駅日光行ホーム（前方）

交通：春日部7:42発（快速）→日光9:12着  
切符は「日光フリーキップ」がお得

解散：午後3時半頃、湯滝にて

担当：中島（康）、松井、福井

見どころ：紅葉も散った初冬の戦場ヶ原に、ウソ・ベニマシコ・ゴジュウカラ等との出会いを楽しみに約6km歩きます。足もとの準備はしっかりと。

## 桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月12日（土）

集合：午前8時30分JR高崎線桶川駅西口

8:43発川越行バスで現地へ

担当：吉原、立岩、榎本、内藤、桜庭、阿久

沢、川那部、宇原

見どころ：道路建設で埋められていく田圃。昨年200羽以上も飛来し、舞いと輝きを見せてくれたタゲリに今年も会えます様に。川田谷が憩いの地であってほしい。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼（一）、森本、小池、関口、菱沼（洋）、斉藤、根岸、中島（章）、和田、石井（博）

見どころ：がんばれバードソン！埼玉県支部の精鋭4人が大麻生にやってきました。ここでの目的はもちろんコハクチョウ。皆で応援しよう！

## 浦和市・三室区定例探鳥会

期日：11月20日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、伊藤、手塚、渡辺（周）、笠原、岡部、嶋田、倉林

見どころ：晩秋の三室です。豊作で、豊かな年の暮を迎えられそうです。鳥たちにはどうでしょうか。ユリカモメ、オナ

ガガモ、キンクロハジロ、コガモ、冬鳥が勢揃いして待っています。

#### 吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：11月20日（日）  
集合：午前9時30分 吉見百穴公園入口そば  
交通：JR高崎線鴻巣駅東口、東海銀行の前より、東武バス8:53発、東上線東松山駅より東武バス8:53発鴻巣方面行に乗車、百穴入口下車、徒歩5分  
担当：榎本、岡安、内藤、吉原、立岩、逸見、関口  
見どころ：♪里の秋♪の雰囲気を感じる晩秋の吉見。屋敷林や林に冬の小鳥、沼にかモの仲間を求めて歩きましょう！

#### 久喜市・菖蒲公園昭和池探鳥会

期日：11月23日（水・祝）  
集合：午前9時45分 菖蒲公園駐車場  
交通：JR宇都宮線白岡駅下車、タクシー利用で現地へ（祝日は9時台のバスはなし）  
担当：中島（康）、松井、林（慎）、浅田、入山、五十嵐、玉井  
見どころ：池に憩う4000羽以上のカモ達。じっくり見ながら識別の勉強をしましょう。トモエガモも、もちろん見られますヨ。

#### 深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：11月23日（水・祝）  
集合：午前9時 JR高崎線深谷駅前  
担当：菱沼（一）、小池、小淵、菱沼（洋）、小野沢、中島（章）、関根  
見どころ：「埼玉見て歩き」コースを歩く。冬の小鳥、ジョウビタキ、ルリビタキ、ピンズイ、キクイタダキなど。身近で楽しみのあるフィールドです。

#### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月26日（土）午後1時～2時ごろ  
会場：支部事務局 108号室

#### 野鳥写真クラブ定例会

期日：11月26日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

#### 狭山市・人間川定例探鳥会

期日：11月27日（日）  
集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口  
交通：西武新宿線所沢8:45発、本川越8:43発に乗車、JR川越線大宮駅からは川越駅へ下車、徒歩約10分で本川越駅へ  
担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、小野、中村（祐）、山本  
解散：正午頃、稲荷山公園  
見どころ：いつまでも布団の中にいないで、おもいきって早起き！身近な冬鳥たちを探して、人間川沿いを歩きましょう。思わぬ出会いがきっとあるはず。

#### 長瀨町・長瀨探鳥会

期日：11月27日（日）  
集合：午前10時10分 秩父鉄道長瀨駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または西武線所沢7:44発→秩父鉄道お花畑9:21発乗車  
解散：午後2時頃 白鳥荘にて  
担当：小池、佐久間、内藤、町田、関根、青山、岡野、関口、井上  
見どころ：静かさが戻った晩秋の長瀨はこれからの鳥見ごろ。オシドリ、カワセミ、ヤマセミなど個性派揃いで彩りの競演。河原を歩ける靴で来て下さいネ。

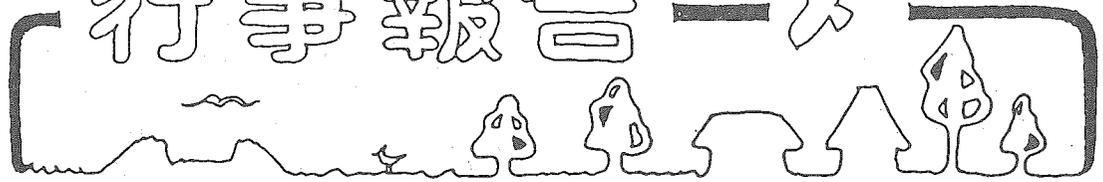
#### 大宮市・深作川遊水池探鳥会

期日：11月27日（日）  
集合：午前8時45分 JR宇都宮線東大宮駅東口、集合後9:02発バスで現地へ。または、9時15分アーバンみらいバス折返場  
担当：中島（康）、林（慎）、墨江、中村（栄）、吉安、玉井  
見どころ：遊水池にかモ、田圃に憩うタゲリ。アシ原ではクイナを探してみませんか。身近なところにも鳥達はいっぱい！

#### 12月23日（金・祝）年末講演会

講師に芥川賞作家、日本野鳥の会理事加藤幸子氏を迎えて行います。多数の方のご参加をお願いします。詳細は12月号でご案内。

# 行事報告



3月12日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水池

参加: 12人 天気: 曇

カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ  
アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガ  
モ オナガガモ ハシビロガモ カワアイサ オ  
オタカ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ シ  
ラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セ  
グロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグ  
ミ ウグイス ホオジロ オオジュリン カワラ  
ヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ  
ソガラス ハシブトガラス (35種) 前夜の雨で参  
加者が少なく、車に分乗して赤麻橋まで行き、広  
大な葦原の上を飛ぶチュウヒを堪能した。貯水池  
では、夏羽のカンムリカイツブリやカワアイサを  
楽しむことができた。(中島康夫)

5月29日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水池

参加: 12人 天気: 曇

カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ カル  
ガモ チョウゲンボウ キジ コアジサシ キジ  
バト カッコウ ホトトギス ヒバリ ツバメ  
モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ セ  
ッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ  
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種)  
渡良瀬の広大な葦原には、オオヨシキリが数え切  
れないほどいる。当然カッコウも沢山いるはず。  
今回の探鳥会の目的は、そのカッコウを見ること  
である。現地に着くと、あちらの木、こちらの木、  
オオヨシキリと追っかけっこをするカッコウなど、  
いるわいるわ。参加者は大満足。他には、コヨシ  
キリやホトトギスも見られた。(中島康夫)

7月17日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カルガモ コジュケイ キジ キジ  
バト アオゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ  
セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス シジュウ  
カラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ ハ  
シボソガラス ハシブトガラス (19種) 森林公園

の自然を考える会の協力で行われた。真夏の暑い  
探鳥会だったが、西田沼のカイツブリ(鳩)の浮  
き巣で、親が雛を背に乗せているのが見られた。  
他に、オオムラサキやトンボ、クモ、オカトラノ  
オや珍しい植物の花も見られた。(佐久間博文)

7月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13人

荒木恒夫、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、  
佐久間博文、桜庭 勇、佐藤信治、玉井正晴、中  
村 治、藤野富代、松元達夫、安原久子、渡辺喜  
八郎 いつも御苦労様です。

8月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 21人 天気: 晴

ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ  
バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ  
ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジ  
ュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズ  
メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス  
(22種) 猛暑にもめげず21人が参加。緑陰で休憩  
しては、また進む。伸び過ぎた葦原と林の中に、  
鳥影は少ない。“出現鳥22種”は皆の汗の結晶。  
我慢会後の冷えたジュースを鳥たちにも飲ませ  
てあげたい。ふとそう思った。無事に終わってホ  
ッとしたのが正直なところ。(岡安征也)

8月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 18人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
ギ カルガモ トビ コジュケイ キジバト コ  
ゲラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ セッカ  
シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ  
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ  
ラス (22種) とにかく暑い。木陰を求めて野鳥の  
森へ向かう。ゴルフ場の芝生は特に暑いのか、鳥  
も居ない。ようやく、林の中でホオジロの若鳥を  
見つける。野鳥の森では、ヤブミョウガが白い花  
を付けている。木陰でしばらく休憩。時折、涼し

い風が通り過ぎて行く。河原は、長居無用。アオサギなどを観察し、早々に引き揚げ。(菱沼一充)

8月21日(日) 浦和市 三室地区

参加: 21人 天気: 雨

ヒヨドリ シジュウカラ スズメ ムクドリ ハシブトガラス(5種)雷雨で約10分間の短い探鳥会。しかし、例年どおり博物館の学芸員の研修生を7名受入れて、館内でいつものように行った。昨年10月の「親子探鳥会」のビデオを上映して勉強してもらい、話し合いをした。今後も博物館と一緒にやっつていこうと再確認した。(楠見邦博)

8月27日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア: 19人

赤塚義正、荒木恒夫、池田好雄、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、角田真喜子、工藤洋三、佐藤進、佐藤信治、篠原東彦、中村治、中村榮男、藤掛美紀、藤野富代、松元達夫、安原久子、吉田時規、渡辺喜八郎

9月3日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 46人 天気: 晴

ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン オバシギ ミユビシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス(36種)猛暑の中、多くの人が集まって実施できた。シギ・チドリは見分けにくくて、せつかく覚えた頃居なくなり、忘れた頃にやってくる。覚えられなくて、あたりまえなのです。(杉本秀樹)

9月4日(日) 本庄市 阪東大橋

参加: 28人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ イカルチドリ シロチドリ コチドリ トウネン ハマシギ イソシギ キジバト アマツバメ カワセミ アカゲラ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ

ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ コサメ ビタキ ヤマガラ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ニュウナイスズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種)予想どおり、厳しい残暑。集合地の屋敷林で、イカルが3羽御見送り。いつもの牧草地のコースが水浸しで、土手の上をテクテクと歩く。それにしても暑い。急遽、コース中唯一の日陰になだれこむ。休憩の後、水際まで歩く。楽しみにしていたアオアシシギが見つからない。ノビタキも御不在。でも、当地初出現の『ヤマガラ』に出会えたので、満足。コサメビタキを見たラッキーな人も。(町田好一郎)

9月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 19人 天気: 晴

カイツブリ アマサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ムシクイsp コサメビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(32種)午前6時、台風の影響を受けた土砂降りの雨。今日は中止かと思っていると、日が差してきた。気温はぐんぐん上昇し、8月並の暑さ。しかし、ほほをなでる風には秋を感じる。鉄塔にチョウゲンボウを見付け、皆で観察。はるか彼方だがオオタカやノスリも。野鳥の森では、コサメビタキも見つけた。河原でシギ・チを探すが、残念ながらイソシギだけ。(菱沼一充)

9月18日(日) 浦和市 三室地区

参加: 38人 天気: 曇一時雨後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ コジュケイ キジ バン イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)前日より雨。雨から晴の探鳥会だったが、コースを短くしたので、楽しくゆっくりした鳥見の時間を持てた。コガモが帰ってきて、ツツドリ、コムクドリと季節の鳥も出現。やがて、季節は秋から冬に移って行き、鳥たちが三室にやってくる。(楠見邦博)

## 連絡中長

### ●バードソン募金受付中

11月13日(日)のバードソン本番も間近。リブラン埼玉レッズ '94が、何種類確認できるか予想して見てください(目標72種以上)。そして、1種当り〇〇円として募金をお申し込みください。

実際の募金額は、「実際に確認できた種類数×あなたが申し込んだ1種〇〇円の金額」です。13日が過ぎて、確認種類数が確定してから、あらためてご送金のお願いをします。「予想種数×1種〇〇円」ではありませんので、お間違いのないように。

それが面倒な方は、定額でのお申し込みもあります。予想種数は、ささやかなビタリ賞の対象になります。

『野鳥』誌9・10月合併号にはさみこまれている申し込み葉書つきのチラシをご利用いただくか、探鳥会で参加者名簿を書く時に、別に用意してある募金申込書にもご記入ください。

チーム順位は、野鳥種類数、募金者数、募金金額を総合して決まりますが、目的はあくまでも鳥と自然のための募金活動。野鳥保護基金の充実のため、総額2,000万円を目指します。

### ●朝鮮大学校公開講座

「朝鮮半島の渡り鳥」

鄭鐘烈(師範教育学部教授)

11月12日(土)午後3~5時、朝鮮大学校にて。費用1,000円。定員60名。

[申込み]往復葉書に住所、氏名、年齢、職業、勤務先、電話番号、希望講座名を記入して、187 小平市小川町1-700 朝鮮大学校科学研究所(TEL 0423-41-1331)まで。

日本になかなか入ってこない情報に接する良い機会です。

### ●里のタカ・サシバサミット

穴塚の自然と歴史の会主催、日本野鳥の会・同茨城支部・茨城県等後援で、「消える里の

自然パートⅢ」として開催。

12月3日(土)午後1時30分から、土浦市穴塚大池見学会と交流会。12月4日(日)午前9時30分~午後4時30分穴塚小学校でシンポジウム。参加費無料、資料代500円、交流会5000円。

[申込み・問い合わせ]

及川ひろみ方(TEL・FAX)

### ●各地で

9月11日(日)越谷市自然ウォッチング指導員の講習会で、山部直喜幹事が講師として指導に当り、10月8日(土)熊谷市大麻生で開催された秩父小野田(株)健保組合探鳥会では、菱沼一充幹事・洋子夫妻がリーダーを担当しました。

### ●11月の土曜日当番(2時~6時)

5日 伊藤芳晴 和田康男  
12日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)  
19日 森本國夫 桜庭 勇(校正の日)  
26日 袋づめの会(1時から)

### ●会員数は

10月1日現在 2,449人です

## 活動報告

9月17日 10月号校正作業(海老原美夫、久保田忠資、桜庭勇)。

9月18日 役員会議(司会・工藤洋三、パネル展・年末後援会・その他)。『気ままにバードウォッチング』校正作業。

9月27日 パネル展につき、アイリスメガネで打ち合わせ(海老原)。

## 編集後記

駅までの通勤途中でシラコバトが頻繁に見られるようになった。毎朝の楽しみがまたひとつ増えた。(内藤)

通勤途中の車の中から、チョウゲンボウの飛ぶ姿が見られればラッキーなのに、まだ1回しか見ていない。(藤原)

『しらこぼと』1994年11月号(第127号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用